

月日：令和7年10月30日（木）
時間： 9：30～12：30
場所：東郷小学校 会議室

- 授業参観 9：45～10：30
- 学校運営状況の報告 10：45～11：05
- 学校運営等への質疑・応答 20分
- 熟議テーマ 11：45～12：15
- 給食の試食 12：30～12：45
(ランチルームで子どもと一緒に)



◇学校運営状況の報告 大山 浩司 校長

- 「思い描く学校を共に創る」という学校目標にし、めざす子ども像に「主体性」と「協調性」を掲げその育成に取り組んできた。そのキーワードとして子どもたちには、「けじめ」と「挑戦」、また、「思いやり」「協力」ということで話をしながら生活してきた。
- 授業等では、話をしている人を見ながら聴くことや、自分から手を挙げて進んで学習に向かう姿勢を大事にし、時には意見を交わしやすくするためにグループ形態での学習を取り入れ、協力しながら取り組む授業を進めてきた。
- 体育行事については、得意な子も苦手な子もいる。自分に合った「めあて」をもたせ主体的に取り組ませている。また、友だちの頑張りを応援する「思いやり」や「協力」といった面でも子どもたちのよさを引き出し育てている。
- 縦割り清掃の面でも、自分から進んで取り組む自主性と低学年の面倒を見ながら協力しながら取り組む姿勢を大事にしている。
- 休み時間が終わるチャイムが鳴ると、グラウンドから走って教室に戻ろうとする姿が見られた。時間にルーズではいけないので、「けじめ」ということでよい姿として褒めた。
- 朝に昇降口周辺が鳥の糞で汚れていたのを見て掃除をしている子や、給食終了後にテーブル周辺を確認しながら掃除をしている子がいた。自主的にやってくれていたチョボラ（ちょっとボランティア）としてみんなに紹介して全校に広げていきたい。
- 一学期に交通事故の事案が発生した。きまりやルールはみんなの命を守るためにあることを再認識させて取り組んでいる。6年生がスライドを使いながら主体的に下級生に校内での決まりを守ることを呼びかけてくれた。また、昼休みの体育館使用について、4～6年生が自分たちで話し合いの場をもち体育館利用の調整を行った。自分たちで作ったきまりは守られている。思い描く学校を創るということにかかわることで嬉しく感じる。



○今後さらに力を入れていきたいこととして、全国学習状況調査のなかに「地域の方からいろいろなことをしていただいている」の項目が、全国や県の平均値を大変上回っている。その一方で、「地域のために役立つことをやっている」という項目はやや低い。「やりたくない」ということではなく、何ができるかをもっと考えさせる機会が必要であり、地域と学校の双方向の関係性を今後も構築していきたい。



◇学校運営状況への質問など 各委員の方々より

- ・先生たちと子どもたちとの距離感が近くとてもよい学校だと感じた。さらに、自分の思いを伝えられる子どもはよいが、なかなか言えない子もいるので、学校を創るという点で子どもが発言できる機会を作ってやることも大切だと感じた。
 - ・自分たちからルールを守ることを発信していることを聞き驚いている。家ではそんな話をしてくれない。リーダー的な子が中心となっているのだろうか。
- 6年生全員で話し合いをしながら説明するスライドを作ったりしている。発表する子だけがかかわっているのではないようだ。
- ・学校には感謝の気持ちしかない。6年生を中心にまとまっている雰囲気を感じる。他学年の子たちも6年生が大好きな様子である。
 - ・自分の子がいる学級は授業参観で見ていたが、今日、他の学年も見せていただいた。まず思ったことが、発表する子どもが多いと感じた。発言した子の意見に同調したり付け足したりと、学級で学ぶ雰囲気がよかったです。毎年「6年生はさすが」と感じる。
 - ・6年生としてリーダー性が育っている。自分たちの思いを発信しながら、過ごしやすい学校を自分たちで築こうとしている。
 - ・休み時間、特別支援学級に通常学級の子どもが遊びに来るところを目にした。孤立しがちになるところなのによい雰囲気を感じた。
 - ・地域の協力についてどんなことが行われているのか。
- 田んぼや畑の先生。畑づくり。科学、教育サポーター活動。ピカピカボランティアなど。

◇熟議テーマ「少子化が進む中、今後の学校教育を考える」について

- ・資料にある三川町の児童生徒数の推移をみて、話には聞いていたが、今後、東郷小がどうなるのか心配だし寂しい気持ちになる。
 - ・三川町の学校給食が自校給食であり、温かい食事が提供されていることに安心を感じている。施設面の維持や人件費、食材費の関係から保護者負担が増すことになる予想はできるが、現状の提供を望みたい。
- 施設維持や人件費は町予算で対応している。食材費は保護者から負担いただいている。三川町全体で小学校は同額となっている。今後については、国の給食無償化の話もあるので、国や県、他市町の動向を見ながら検討していくことになると思う。

- ・食の安全にかかわることなので、児童数が減ったから調理師を減らす等の方向になってほしくはない。ある程度の試算は早めから伝えてもらうことがありがたい。
- ・法律で児童数が減れば職員数も減る。メリット・デメリットが当然出てくると思える。
- ・保護者ボランティアについても人数的な限界が状況としてある。より地域とのかかわりをもつていけたらありがたい。地域の人が学校に訪れ、かかわることができる機会を仕組んでいくことも今後大切。学校やPTAとして地域に協力をお願いする事案があれば、後援会組織「廣文の会」での理解と協力をお願いする方向がよい。
- ・地域の拠点となるように、相撲大会や東郷祭をもっと地域向けに発信することもよいことである。学校職員の負担にならないようにしなければならない。
- ・児童数の減少に伴い、義務教育学校や小中一貫校など、国の方でも重視の方向に変わりつつある。児童数の減少から他校との交流学習的な体制での授業ができないのか議会でも話題に挙がったと聞いた。
- ・小学生に地域の人と関わっているのだという意識を根付かせていくことも大事。中学生になると地域との関わり意識が高くなっているのも、小学校での地域との関わりが根底にあるからだと思う。

→東郷小では、三川ふるさと学習を推進し、三川に思いを寄せる子供の育成を図ってくれている。こういった小学校での積み重ねが中学生の地域への意識の高さにつながっていると考えている。